

3. 寄稿：和魂デジオ （朗読家、駒澤大学・東京工芸大学非常勤講師 神野文子）

舞台上で物語を語ることに、大学でコミュニケーション系の講師をしているはしくれとして、これからの日本の教育、主に国語教育について考察してみたい。

今話題になっている ChatGPT の現時点

今話題になっている ChatGPT（対話ソフト・文書生成 AI）は、画期的であり、私も試している。いまの時点での私の理解では、ChatGPT の特徴は次の 4 つである。

- ① 文書作成の時間を大幅に短縮できる。
- ② 自分では考えもつかない提案をしてくれることもある。
- ③ すべてが正解ではないので、目的に合わせて自力で仕上げなければならない。平均 7 割くらいは正しいが、残り 3 割は間違いや、的外れもあるので、しっかり自分の感性と国語力で判断できなければならない。それを踏まえて利用すれば、ゼロから考えなくてもたたき台程度は出してくれるので、その分は楽になる。そこから、自分の創作物となるよう完成させればよい。
- ④ もう一つの特徴は、ChatGPT にどんな質問や命令をするかによって、ChatGPT の返答は全く違うものになってくる。賢く利用するには、優れた質問力も必要ということになる。

日本の教育の未来

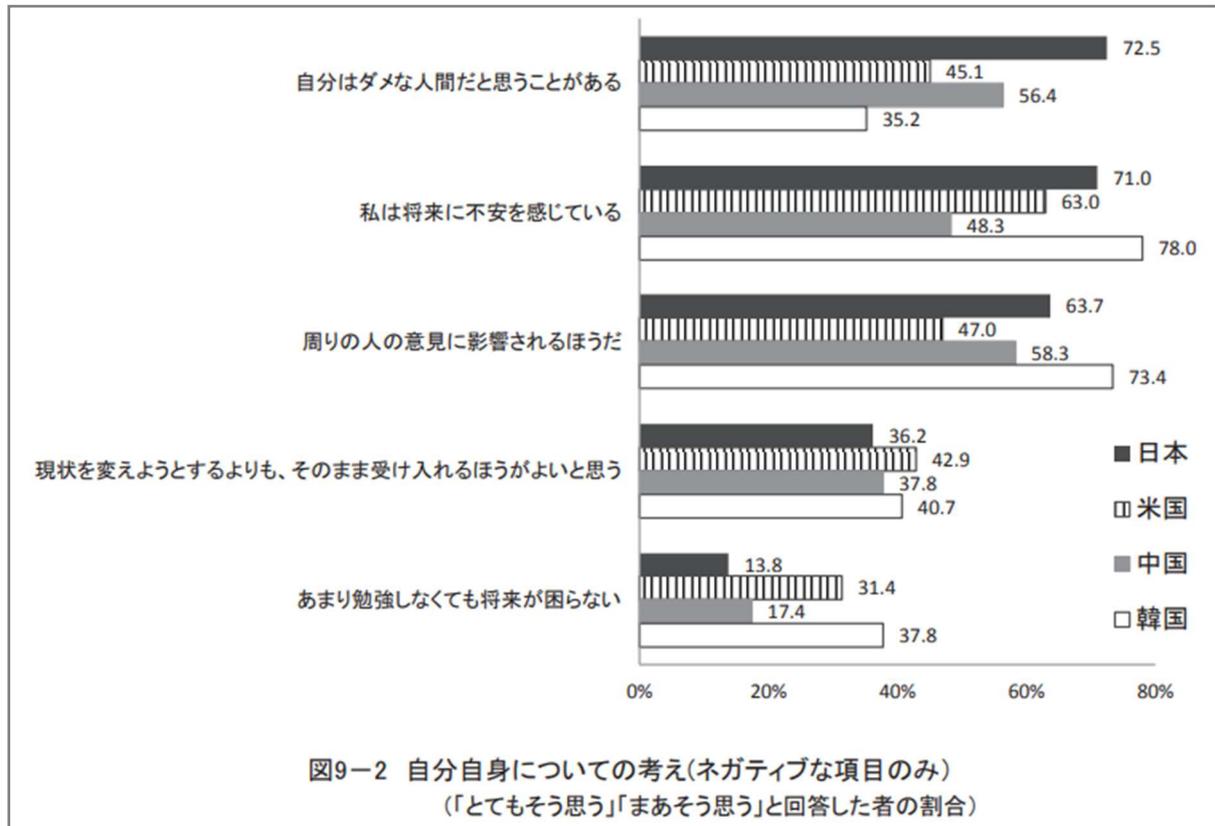
文部科学省が推進する「GIGA スクール構想」は、小中高等学校などの教育現場で児童・生徒各自がパソコンやタブレットといった ICT (Information and Communication Technology) 端末を活用できるようにする取り組みである。「GIGA」は「Global and Innovation Gateway for All (全ての児童・生徒のための世界につながる革新的な扉)」を意味する。子どもたちが DX 化社会で自ら道を切り開いていくために、必要な教育である。

2023 年 5 月 25 日の日本経済新聞によると、文部科学省は当初 2024 年 3 月末までに端末の配備を終えるとしていたが、コロナ禍で登校できない等あり、急遽 3 年前倒しし、2021 年度末までに、生徒一人に一台のタブレット端末の配布が完了した自治体が 99% に至った、とのことである。ただ十分活用できているかは、ばらつきがあるようだ。これからは実証実験も行い、生徒ごとの学習データを集めて分析し、やがては一人一人の習熟度に合った学習ができるようになるようだ。デジタル教材で、教育の質の向上、期待したい。

次に子どもたちの心の発達に目を向けてみたい。日本の高校生へのアンケートで「自分はダメな人間だと思うことがある」の問いに 72.5% が「そう思う」「まあそう思う」と答えている。これはアメリカ、中国、韓国より断然多い。（次ページの図 1 つ目参照）

その他、日本や日本人に誇りを持っていない、自分に自信が持てない、20 歳未満の自殺率が増えている、など問題がある。教育を変えなければ日本の未来は危ういと思う。そんな中、超党

派議員と民間有識者などからなる「教育立国推進協議会」（座長は下村博文衆議院議員）が、活発な議論を展開している。教育立国を目指し、皆で力を尽くしたい。



出典：「高校生の生活と意識に関する調査報告書-日本・米国・中国・韓国の比較」2016年
独立行政法人国立青少年教育振興機構

さて、子どもたちが自分に自信を持つためにはどうしたらよいのか。一つ言えることは、使命感を持って生きている人は輝いているということである。命を使うと書いて使命。大学生に「あなたの使命は何ですか？」と聞くと「え？わからない。考えたこともない」という学生がほとんどである。自分は何をするために生まれてきたのか、自分の興味・得意なこと、などを基に考えてみることも大切ではないか。これは「志」とほぼ同じだと思う。私が小さな田舎町の中学2年生のころ、男子だけ「立志式」というものがあった。その後廃止になったが、新たな時代の立志、志を立て誰かに宣言することも良いことではないか。

そして、子どもたちが日本や日本文化に誇りを持つためには、日本の伝統的な芸事や武道に接する機会を増やすことも一つの方法かと思う。

読み書き能力

さて、冒頭の ChatGPT を使いこなすためにも国語力が必要なのだが、新井紀子著「AI に負けない子どもを育てる」によると、子どもたちの読み書き能力が低下していて、数学や理科や社会など、そもそも教科書に書かれている文章の意味が理解できていない子どもが増えているそうだ。文部科学省はその対策として、2022年度から実施される新学習指導要領では、高校の国語

を「現代の国語」（必修）「言語文化」（必修）「文学国語」「国語表現」「古典探求」「論理国語」という6科目に再編成した。必修以外は4科目から2科目を選択することになる。

「論理国語」は目新しいが、これで教科書の文章の意味や評論文の意味を理解する能力を育てるということだ。

伝統的な日本の文学・文芸は「文学国語」か「古典探求」で学ぶ。選択科目となってしまうと、美しい日本語に接する機会も減ってしまうと危惧している。論理国語とはある意味対極の、奥ゆかしさ、曖昧な中に何かほんのり伝わる表現、味わい深い表現、含みのある言い方、何かにたとえたり見立てたり、余韻が残ったり…。私たちが受け継いできた日本人の心、日本語の美しさ、語彙の豊かさは子々孫々に伝えていかなければならない。

国語力を養うために

私は、国語力を養う一つの方法として、話芸としての朗読「ドラマティックリーディング」をお勧めしたい。ドラマティックリーディングは、落語や講談と同じように、一人で、物語に出てくる何人もの登場人物のセリフを演じ、物語りの中の出来事が、まるで今ここで行われているかのように表現する。まさに劇的な読みなのである。

このドラマティックリーディングで聞き手に感動してもらうためには、まず、取り上げる作品は一流作家のものが良い。文章に間違いがなく、美しく整っている。そして、その物語で、何を伝えたいのかを汲み取る。また、何人もの登場人物のそれぞれの性格分析や場面ごとの心理心情を想像しなければならない。発声発音にも気を配り繰り返し練習する。これはかなりの鍛錬になる。

私は、学生からお年寄りまでドラマティックリーディングを指導しているが、繰り返し練習すると必ず上達する。声がよく出るようになった、想像力がついた、人前でしゃべるときも余計な緊張をしなくなった、他者の声や話し方などにも注意を向けるようになった等、受講者から良い報告を受けている。

結び

これからの日本をより良いものにして行くために、伝統的日本文化や日本精神は失わず、そしてDX化で社会が変革する中で、デジタル技術を使いこなす能力はしっかり身に付け、両者を合わせ持つ人、つまり「和魂デジオ」とでもいえるような人に皆がなり、それぞれが得意分野で「和魂デジオ」を発揮して行くことで、より良い日本を、世界をつくっていこう。



令和4年度文化庁芸術祭参加公演にて